

だれもが、まるごと受けとめられる社会
を目指して

NPO 法人 わっか

[活動報告]

2017 - 18



わっかをご支援くださっているみなさまへ
感謝をこめて

いまの子どもたちは、自分では変えることができない社会環境や、大人の意識の変化により「思うがまま」に過ごす時間や、まるごと受けとめられる経験が少なくなっています。大人の価値観による評価、他者との比較や数字で表せる結果で、子どもの存在を条件付きで認める場ばかりになり、さらには、地域社会においても、その子のまるごとを受けとめてくれる存在も少なくなっています。また、学校、学習塾、習い事、スポーツクラブで多忙な毎日を送り、仲間も時間も空間もなくなりつつあります。だから、私たちは、まるごと受けとめられる場づくりをしたいという思いで古民家開放や冒険遊び場を行っていきます。

Mission -われわれが、実現したいこと-

「私たちは、だれもをまるごと受けとめます」

私たちのスタイルについて

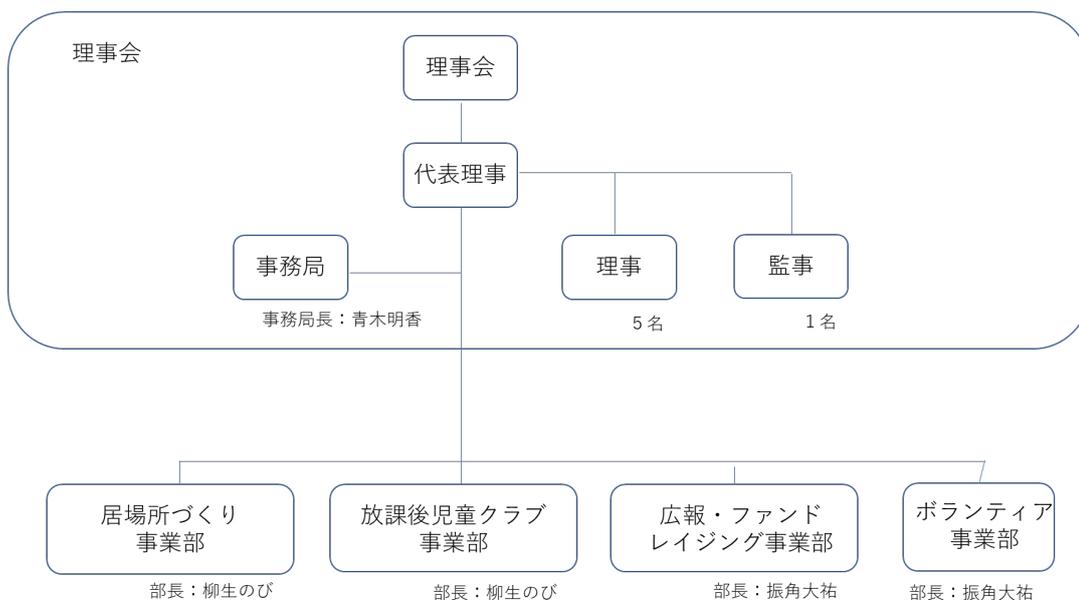
「おやごころ」

木の上に立ち、子ども達をそっと見守る親の姿のように居場所づくりを続けることで出会う誰をも、まるごとを受けとめ、そっと静かにやさしく見守る。それは、子どもの成長を信じ、深い愛を注ぐ親と同じだからです。

「わっかにくる、みんなへ」

わっかにくる人は、ミッションを実現する仲間であり、一緒に社会を変える仲間です。

わっか 組織体制



-居場所づくり事業-
[活動報告①] 月ようわっか



参加者のべ **1,150** 人 回数 **50** 回

毎週 月曜日 15:30 – 20:00 頃まで

子ども達がみちくさ的に、ふらっと立ち寄ることができる放課後の居場所を提供しています。

子ども達は、自分たちの気の向くまま、来たいときに来て、帰りたいときに帰っています。

ここでは、誰かに指図されることも、我慢することはありません。それぞれが思うがまま、好き好きに過ごす場所です。床にチョークで落書きする子もいれば、外でカンカンと音を響かせながら木工をする子もいます。ゴロゴロしてマンガ読む子もいます。ちょっとの間、立ち寄って、宿題をする子もいます。待ち合わせは、わっかでなんて子もいます。

ルールがあるとすれば「ルールがない」ことぐらいです。「自由」な場として、地域の子ども達に定着しつつあります。学校では、大暴れするような子でも、ここでは暴れません。暴れる理由がないからです。

いわゆる支援学級に通う子ども達も参加者全体の半数近くいます。不登校の子ども達もいます。それぞれ社会に対して生きづらさを感じている子ども達ばかりです。でも、ここでは感じる必要がありません。

子ども達それぞれの思いが共鳴し合いながら、この場ができていますからです。わたしはわたしでありながら、他人と関わるすることができる場です。

結果は求めていません。ただ、願っています。自信をもちながら、飛び立つ瞬間がくることを。

-居場所づくり事業-

[活動報告②] 日ようわっか



参加者のべ **364人** 回数 **23回**

毎月1～3回 日曜日 10:00～15:00

「ここでは、ゆっくりすごせるんよ。」という保護者の声をよく聴きます。そんなとき子どもたちは、わっかの中で他の子と遊んだり、一人で何かをされていて保護者の周りから離れています。

もともと、子どもが自由にすごせる場所にしたいと思って始めた活動で、いまも最も大事にしています。例えば、お昼ご飯をつくるとき、子どもたちは自分たちで野菜を切ったり、調理をしようとします。家では注意したり指示したりしますが、ここでは子どもがすることを見守っています。大工道具で工作するときも、いちいち手順などを教えずに「どうするのかなあ」とちょっとわくわくしながら見えています。そうすると子どもたちは自分たちで試行錯誤します。そんなとき子どもたちは真剣な顔だったり、思いっきり笑ったり、いい表情をしています。また、自分で行ってみて出来なくて大人の助けを求めてきたときは、必要なだけ手伝います。そんな時間を重ねていると、子どもは子どもだけで遊んだり、大人と一緒にだけ、ずっと関わり続けなくてもよくなる。家ではずっと遊んでいる子どもが、ふと自分から離れる時間がある。そんなとき、「ここでは、ゆっくりすごせるんよ」と保護者は感じるんだと思います。そうして、大人に心に余裕ができると一緒に子どもとすごす時間がいいものになります。

子どもが自由にすごせる場所に、日ようわっかがなってきたつあります。そして、そのとき一緒にいる大人もゆっくりできていることが、日ようわっからしさだと思います。

-居場所づくり事業-
[活動報告③] waccafe



参加者のべ **53**人 回数 **27**回

毎週 月曜日 10:00 - 14:00 頃まで

平日のこの時間に小さな子供を連れて子どもを連れてお母さん、お父さんがゆっくり過ごせる場として、普段のわっかでゆっくり話せない大きな子ども（大人）達が台所番あすかに話しにくる場所、だべり場として場を提供しています。

ただただ、ゆっくり時間を過ごすお母さんもいれば、じっくり子どもと遊ぶお父さんもいます。

日々の思いをここぞとばかりに、あすかにぶつけて、すっきりして帰る人もいます。

悩みを話して、その場で泣いてくれる人もいます。

ゆっくりとカフェ気分を味わいながら、日頃とは違う時間の過ごし方をしてもらえる場が「waccafe」です。

-居場所づくり事業-

[活動報告④]のっばらわっか|冒険遊び場



参加者のべ **163**人 回数 **11**回

毎月1～2回 日曜日 10:00 - 夕方（子ども達が帰るまで）

参加費無料、申込不要の子ども達の自由な遊び場です。一般的には、プレイパークとか冒険遊び場と言われている取り組みです。戦時中、ヨーロッパで始まった取り組みで、子ども達は出来上がった遊具よりも、廃材などのガラクタがある方が豊かに遊ぶことを発見したことからはじまりました。

のっばらわっかでは、焚き火や木工、竹馬、いろんなサイズや形のボールなどがあり、駄菓子やカップラーメンの販売もしています。

ここでもルールはひとつ「ルールがない」ことです。持てる力を目一杯出して遊びまわることもできます。ただ、ぼーっと火を眺めていることもできます。なにができるかではなく、プログラムもなにもないからこそ、なにもしないで過ごすこともできるのです。心ゆくまで子ども達が過ごせる場として開催を続けています。

【活動報告⑤】 居場所づくりサミット



参加者数 講演会のべ **111** 人 交流会 **52** 人

10月28日、29日に全国で居場所づくりを行っている9団体を招き、第1回居場所づくり全国サミットを開催し、事務局として運営を行いました。交流会では、これから居場所づくりをされる方や居場所づくりをしている方と意見交流を行いました。

居場所づくり全国サミット

後援：米原市、米原市社会福祉協議会 開催事務局：わか（滋賀県米原市）

10月28日(土)・29日(日)
9:00~17:00 滋賀県米原市
文化産業交流会館

ひとりの思いから、始められることがあります。

もっと自分らしくいられる場所、ほっとできる場所がほしい。そんなことはありませんか？ そんな「居場所づくり」に関わっている、全国の仲間が米原に集まって取り組んでいることを発表し、来場の方と交流する会です。

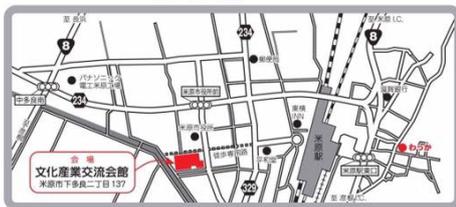


まずお金や場所や人を集めて、地域の組織や学校とつながって……そう考えると、とても大変なことのような気がするけれど、ひとりの思い、ほんの小さな活動から、できることがあります。

おともなも子ども、自分らしくありたいすべての方をお待ちしております。



「大切なのは、どれだけたくさんの方をしたかではなく、どれだけ心をこめたかです。」
【マザーテレサの言葉】



【お問い合わせ先】 056-8971-7719（休）099 または info@cultureindustryexchange.com
【Web】 https://bouke-anobba.jp/ 【Twitter】 @cultureindustryexchange 【Facebook】 居場所づくり全国サミット で検索

チケット ◎前売9:00~17:00 2,000円/半日券1,200円
◎当日券17:00~19:00 2,500円/半日券1,500円/1券表700円

プログラム 28日

9:00~10:15

福生のびきん・福角大祐さん
（滋賀県米原市）

こどもが、ほっとできる場所
「わか」
https://www.facebook.com/odysseya/

10:30~11:45

新野学美さん
（滋賀県多賀町）

みんなのたまり場
「ちゃがやん」
https://chadayan.wixid.com/dokan

12:30~13:45

大川理恵さん
（滋賀県伊香賀郡伊香賀町）

子どもの居場所
みんなの寄り道
https://www.artpost.com/teffroduction/

14:00~15:15

神林優一さん
（滋賀県栗東市）

子どもの遊び場 おとなのお茶こ場
「ことまど」
https://www.facebook.com/kotomado/

15:30~16:45

片山雄太さん・片山真子さん
（滋賀県長浜市）

こどもたまり場「かっちゃん」
おっちゃんさん達のゴハン
https://www.facebook.com/kochan/

プログラム 29日

9:00~10:15

小田由江さん・小田高士さん
（滋賀県彦根市）

みんなのおうち
「おだやが荘」
https://www.facebook.com/odayakastay/

10:30~11:45

宮田 隼さん
（滋賀県高岡市）

コミュニティハウス
「ひとのま」
http://hitomama.net/

12:30~13:45

黒木健太郎さん
（滋賀県栗東市）

居場所づくり「モモパーク」
https://www.facebook.com/momopark/

14:00~15:15

小林由紀さん
（滋賀県栗東市）

みんなのHOME
「よみまちステーション」
https://www.facebook.com/yomimachistation/

15:30~16:45

渡部達也さん・渡部美穂さん
（滋賀県彦根市）

居場所づくり「たごっこパーク」
なごとのたまり場「おもしろ荘」
http://yumechocolat.web.fc2.com

-その他-

[活動報告⑥] おさがり市+waccafe



参加者のべ **12**人 回数 **3**回

わっかには来てくれる方や活動を応援して下さる方から頂いた着なくなった服がたくさんあります。その頂いた服を必要な方に届けるために行っています。県外から、服を寄付して下さる方もいます。





参加者のべ 23人

わっかのご近所の方に、日頃の感謝の気持ちを伝えたくて行いました。当日は、わっかのある米原区の方4名の参加があり、子どもたちが餅をつく様子をご覧になったり、一緒に餅を食べました。来てくださった方は、その後わっかを開けているときなどに会うと、わっかの活動を応援してくださいませ。これからも地域への感謝の気持ちを伝える機会を設けていきます。



-その他-



[活動報告⑧] ピザ窯づくり -日ようわっかを開きながら



参加者のべ **36人** 回数 **5回**

日ようわっかに来ているお父さんを中心に、自分たちで図面を書くところから製作まで行いました。子どもたちも作業に関われるところは一緒に参加しました。3月から始めて4月8日に完成し、みなでピザを作り食べました。その後も、製作した方を中心に定期的にピザづくりを行っています。



-その他-

[活動報告⑨] マルシェで1日遊び場開催



ゆっくりマルシェ 4回 IBUKI Country Fair 1回

米原市内で2か月に一回程度行われる「ゆっくりマルシェ」では第1回からマルシェの一角で遊び場を開催しています。マルシェに来ている子どもたちが楽しく過ごせるようにと思い参加しています。「IBUKI Country Fair」は、主催者がゆっくりマルシェで、わかかのことを知り声をかけてくださりました。



[活動報告⑩] 講演会実績

2017.5.9 13:30～15:00 題目：わっかの概要と地域との関りについて

場所：滋賀県米原市

主催：米原市社会福祉協議会、伊吹民生児童委員協議会

2017.7.29 11:45～12:20 題目：わっかの取り組みについて

<内容>

滋賀大学が主催する「地域活性化プランナー学びなおし塾」の現地研修にてわっかの視察と概要説明を行いました。

場所：滋賀県米原市（わっか）

主催：滋賀大学 地域活性化プランナー学びなおし塾

2017.9.10 9:00～11:00 題目：わっかの概要と施設案内

<内容>

竜王町では今年度から「竜王町地域支え合いしくみづくりモデル事業」に取り組まれていて、子育て支援への部分の視察で、わっかを選んでくださりました。

場所：滋賀県米原市（わっか）

主催：滋賀県竜王町林自治会、竜王町役場



2017.9.14 13:30～15:00 題目：わっかの概要と施設案内

<内容>

わっかが大事にしている「こどもが自由に過ごせるために注意などはせず見守る」ということや「こどもが、ほっとできる場所をつくっていたら大人もほっとできる場所になってきている」ことなどをお伝えしました。

場所：滋賀県米原市（わっか）

主催：米原民生委員児童委員協議会児童福祉部会

2017.10.28 居場所づくり全国サミット 題目：わっかについて

<内容>

わっかの設立経緯や、スタッフ三人が大事にしていること、一人でも居場所づくりを始めるためのちょっとしたアドバイスなど、話をさせていただきました。

場所：滋賀県立文化産業交流会館



2017.11.30 題目：わっかについて -居場所づくりの視点から-

<内容>

7月29日に見学をしていただきましたが、よりわっかの活動について居場所づくりという観点から「地域共生グループ」のメンバーの方にわっかの活動を説明しました。

場所：滋賀大学 地域活性化プランナー学びなおし塾

2017.12.18 授業：地域づくり人材論にて

<内容>滋賀県立大学「地域づくり人材論」でわっかの活動や、なぜ活動を始めたかを講義しました。

2018.1.22 18:30～19:10 題目：わっかの概要説明

<内容>

わっかの設立経緯や、スタッフ三人が大事にしていることなど、話をさせていただきました。

場所：滋賀県米原市（ゆたに公民館）

主催：岐阜県社会福祉協議会

2016.12 成美堂出版「今がわかる時代がわかる 日本地図 2017」
 「広がる子ども食堂の記事内」に写真でわかっかの様子が掲載されています。



2016.12 米原市地域情報誌 “まいスキッ”

— Maibara Citizen group



ごはんも子ども達で準備します



今日のお昼ご飯はなにかな？



自分で作ったご飯はごちそうです



色々な遊び道具が揃ってます



保護者やスタッフに見守られながら、みんなで元気に外遊び



わかっか ※お気軽にお問い合わせください！
 住：米原市米原 561
 Tel: 090-6917-7319 (代表 振角大祐)
 HP: <http://bouken-asobiba.jimdo.com/>

近所に子どもたちの笑い声が少なくなった現在、「わかっか」は子どもたちが思いっきり遊べて学べる新しい居場所かもしれません。

ここのもう一つの楽しみは「子ども食堂」。お昼前になると、子どもたちが親やスタッフに見守られながら、お昼ご飯の材料を切り始めます。子どもたちの手で準備して作り、集まった親子みんなでいただくお昼ご飯は、どんなランチより美味しいですね。

「サッカーしよう！」「二輪車で遊ぼう！」と、子どもたちの笑顔と声が飛び交う古民家「わかっか」。

代表の振角大祐さんは、子どもたちがほっとできる居場所を作ってあげたいと、築200年の金物屋だった古民家を改装し昨年7月に、わかっかをオープン。子どもだけでなく親子でほっとできると口コミで広がり、毎週多くの親子連れが集っています。

米原でがんばる市民団体を紹介します！
 子どもたちがほっとできる場所「わかっか」

※今号より、米原市内の市民団体をジャンル問わずご紹介していきます。自分たちの活動を紹介したいという方は、ぜひ編集部までご連絡ください！

みんなの遊び場
空き地内に完成
米原の子ども食堂
米原市米原の子ども
食堂「わかか」に隣接
する空き地に、子ども
たちの遊び場「みんな
のにわ」が完成した。

わかかが開いたワーク
ショップ(体験講座)
を通じて、子どもや保
護者の要望を取り入れ
て造った。

空き地は縦四辺、横
三十辺ほどの広さ。こ
れまでは路上で遊ぶ子
どももいて、安全面に
不安があったことか
ら、わかか代表の振角
大祐さん(三三)が空き地
の活用を考えた。「遊
びたくなる庭を造ろ
う」と、京都府に住む

園芸家に工事を依頼。
費用は、市から六十万
円の補助を受けた。
遊び場には、レンガ
を敷き詰めた線路道を
作り、子どもたちがリ
ヤカーを引いて遊べる
ようにした。砂場や花
壇もでき、家庭菜園も
始めた。整備には子ど
もたちも関わった。

振角さんは「穴を掘
ったり、道具を放置し
たりしてもいい。自由
に楽しめる子どもと思

いが詰まった庭になっ
た」と完成を喜んでい
る。(大橋貴史)

花壇や砂場などがあ
る「わかか」の遊び
場。米原市米原で



わかか

“冒険遊び場の屋内版を”との発想から2年前にスタートした「わかか」。元金物屋さんの古民家を月曜放課後に開放し、宿題するもよし、友達や大人スタッフと遊ぶもよしの自由な居場所に。夕方からは子ども食堂にもなります。月数回の土日開放日や、大人も一緒に参加できる「まなびあいの会」などは地元以外からの参加者も多く、多様な交流の場となっています。

Info
わかかでお泊りミニキャンプ
7月中旬開催予定!
詳細はHPをチェック♪

DATA
米原市米原561 (JR米原駅東口から徒歩約5分)
開催日/月曜15:00~20:00頃、
ほか月数回の土日開催も有り





2017/11/4

居場所づくりに知恵 米原で全国サミット始まる:滋賀:中日新聞(CHUNICHI Web)

滋賀

2017年10月29日

居場所づくりに知恵 米原で全国サミット始まる

子どもや大人の居場所づくりに関する全国サミット(中日新聞社など後援)が二十八日、米原市下多良の県立文化産業交流会館で始まった。二十九日まで。

市内で子ども食堂などを運営するグループ「わかか」が主催し、同様の活動に取り組む、岐阜、広島、静岡県などの団体も参加。イベントでは各団体が七十五分間ずつ、取り組みをパワーポイント形式などで発表している。

わかか代表の振角大祐さん(34)は「各団体の情報交換などとどまらず、これから活動を始めようと考えている人のヒントになれば」と話している。

午前九時~午後五時。聴講するにはチケットを購入する必要がある。

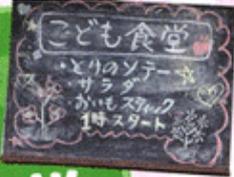
(問) わかか=090(6917)7319

(山村俊輔)



子どもや大人の居場所づくりのための取り組みを紹介する参加者=米原市下多良で

連載第2回 ようこそ! うちの子ども食堂 ~わっかの「子ども食堂」~



ここは中山道沿いで観光客の方も通られますので、時々休憩所として開けていました。「わっか」が利用されるようになり、高齢化になって来ている地域の皆さんも「子どもの声が聞けていいね」と喜んでおられます。子どもから高齢者まで地域の人たちが集まれる場所になるといいですね。



三輪信子さん
子ども食堂開催場所である古民家(金物店)の管理人



12月から参加しています。子どもが伸び伸びと好きなことをして遊んでいる姿がいいですね。みんなで一緒にできることがいいみたいで、調理も自分から進んで楽しんで手伝っています。お母さん同士ここで友達になってお話もでき、ほっこりできる場所ですね。

三輪恵さん
果凜ちゃん(小1)
環奈ちゃん(3歳)



毎週家族で来ています。一年前に引っ越してきて知り合いがなかったのですが、ここは祖父母の家のような雰囲気でも生活の一部になっています。子どもも親も共に憩いの場所にもなっています。家だと辛い食事の後の片付けも、みんなで楽しみながらできる場所がいいですね。

児玉美香さん・玲奈ちゃん(2歳)

ここでは子どもが生き生きといて、その遊ぶ姿を見守っているのが楽しいですね。

児玉昌典さん
悠真くん(5歳)



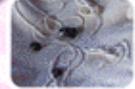
「子ども食堂はどんな場所?」



子どもも大人もホッとできる場所!

「わっか」に集まってくる子どもの年齢層は、未就園児から小学生まで様々です。またボランティアには、米原高校の生徒さんや地域のシニアの方まで、様々な世代の方が参加されています。子ども達は、大家族のような幅広い世代の人とのかかわりの中で、自由に遊んだり勉強する一方で、調理など自分のできることを自主的にお手伝いしています。今後も多くの方々に参加してもらい、わっか子ども食堂を盛り上げていきたいですね。

福田麻友さん 米原市社会福祉協議会



清水朝雄さん
上丹生プロジェクトK
(米原の地域活動ボランティア)

標をつくったり引き戸をつけたりと、この古民家のリフォームをお手伝いしました。オープンの中から覗いていますが、ここは学校が教えないことを学べる場であり、私たち子ども達からも教えられる場ですね。人とふれ合いながらお互いに成長するところだと思います。



日曜日に妻も私も仕事があるので交替で子ども達と来ています。家に居ると限られた遊びしかなく、放っとくとテレビを見てしまいます。ここはサッカーをしたり懐かしめのペーゴマがあったり、子ども達が遊ぶ姿を見るのも、一緒に遊ぶのも楽しいです。何よりの大人の目が多く安心できる場ですね。

泉英樹さん
湧太くん(小1) 俐玖くん(5歳)

近所では子どもが少なく、ここは唯一子どもの姿がたくさん見られます。ここに来てから私たち親から離れて遊べるようになりました。こはん作りで癒すも初めて使い、子どもの成長のいいきっかけづくりの場であると共に、私たちにとても息抜き場となっています。



北川華子さん・陽大くん(5歳)

私も長浜で「子ども食堂」を開きたいと思い、参考のために参加させていただいています。子どもは彼の上に小学1年、5年生の男の子がいます。やんちゃな彼らを見ると、仲からはみ出して自由にできる場があればと思っています。何よりも子ども親も気兼ねしないで安らげる場ですね。

わっかの「子ども食堂」

子どもが自由に過ごし、おともと一緒に楽しいと思える時間と空間に!

開催日 平日(月か火) スタッフは2名 15:00~20:00
土日・祝日:11:00~16:30
参加費 食事代 大人300円 子ども無料
場所 米原市米原561「わっか」



和田朋子さん・章宏さん
雛美ちゃん(3歳)

昨年7月に子どもの放課後や土日・祝日の遊び場として「わっか」がオープンし、11月から子ども食堂が開催されるようになりました。代表の振角大祐さんは、外でダイナミックに子ども達が遊べる場所「冒険遊び場」も開き、その延長線上に「わっか」という子どもの居場所をつくりました。「そもそも自分の娘と遊べる自由にほんわかした場所が欲しい」と思っていたんです。基本は子どもたちが自由に遊べてホッとできる場所ですね。子ども食堂でみんなで作って食べるごはんは楽しく、

子どもの頑張りも見られます。今のところ子ども食堂は日曜日のお昼と月曜日の夜が中心ですが、皆さんの要望に応じていける場所にしていきたいと振角さんは言います。そのためにもまずは子ども達の確かな放課後の居場所づくりを充実させ、悩み相談など打ち明けてもらえる信頼関係をつくっていくことで次のステップへとつながっていく、そうした子ども食堂の膨らみにスタッフも地域の人も期待しています。



▲自発的に子ども達と親がごはんの支度を始める。



▲自転車やボール投げ、縄跳びで元気いっぱい遊ぶ。



▲金物店だったという築約200年という佇まいでの活動。

問い合わせ先 TEL.090-6917-7319(わっか代表 振角大祐)
<http://bouken-asobiba.jimdo.com/>

【発行】滋賀の縁創造実践センター 第六号 発行日/平成二十八年四月二十五日 T52510072 草津市笠山7丁目8番1号 TEL:077-569-4650 FAX:077-567-5160 <http://www.shigashakyo.jp/enishi>

巻頭特展

みんながほっと
できる場所 わっか

子どもの自由な心と 自主性を育む

子どもたち

自由に遊べる場所をつくろうと、

米原市内の古民家を改装した「わっか」。

親子で食事をつくって、

みんなでわいわい食べる子ども食堂や、

週に一度のwaccabiなど、

さまざまな活動を通して地域の子どもが

ほっとできる居場所づくりを目指しています。



子どもも大人もほっとする
居場所づくりを目指す

子どもたちが元気にあそぶ
足音や、無邪気な笑い声に包まれ
た昔の古民家。米原米屋にあ
る「わっか」は、地域の心が目
由な時間を過ごすための居場所です。
選定しているのは、懐かしい
がある子どもを支援するNPO法

人で活動していた飯沼さん、
10年以上に渡り子どもに囲むる活
動をしている柳原さん、食育
や本養生に精通の深い草木明香さ
んの3人。
活動のきっかけは、平成25年に
米原市内で開催された講演会です。
静岡県で子どもたちの居場所づく
り活動をするNPO法人ゆめ・ま
ち・ねつとの人話を聞いて、感

動を受けたいと思います。
地元の子どものために「居所
づくりをしよう」と、平成26年に
米原市手塚で休耕田を活用した
「冒險遊び場」を整備。翌年活
動の拠点を「わっか」をす
ブします。以前は倉庫屋だけ
築き20戸の古民家を利用しまし
た。大家さんも地元を元気にす
る活動をしていた方で、市の担当



昨年9月、わっかの隣
に改装した「みんなの
わっか」ワークショップ
を開催。地域の子ども
や保護者、関係者など
と一緒に参加して、こ
れからの活動について
話し合いました。



代表
阿部 大樹さん
米原市の子どものための居場所づくりを
目指す「わっか」の代表者です。

者を通して早く気づいていただけ
ました。柳原さんは英語が通し
ます。その影響「わっか」から約1
000坪の場所に「冒險遊び場」を
整備。月には子ども食堂を開始
しました。
昨年7月には、わっかの隣の空
き地に「みんなのわ」が完成

子どもたちや保護者が参加した
回のワークショップを経てつくら
れました。さらに昨年7月から
「waccabi」をスタート。
子どもだけでなく、大人もほっと
できる居場所づくりのため、ちま
ちまな活動に挑戦しています。
参加型のイベント実施で
地域の交流を図る
「わっか」の活動日は、土日は
不定期開催で10時から夕方にか
けて、毎週月曜は夕方から夜にか
けて、月に8回は活動しています。

申し込み不要、参加費無料と誰
でも好きな時間に自由に出入で
きます。
広々と土間には、フロー
アや幼児用おもちゃ、ブロック、ボ
ードゲームなど、地域の人たちが
持ち寄ったおもちゃが充実。絵本
や児童文学、漫画がそろったと
も又所蔵もります。0歳から小学
生までが、思い思いの時間を楽し
みます。
土日の夜と月曜の夜には、ちま
ちまな食事を準備。米を持ってくる
地域の農家、野菜を持ってくる保
護者、照の社会福祉協議会など、

たくさんの人から寄付を受け
ています。
昌隆は草木さんが中心となって
和食を提供。土日は自由参加で、
子どもたちが自分で準備を助た
り、肉を炒めたりして、大人と一
緒に調理をつくりまわります。
まだ月曜日のペースで、火起
こや木下遊びができる「冒險遊
び場」つばらわっか」を準備。子
ども服をサイクリングを毎月1回
の「さきがり市」や、居場所の大
切さを子育てに関する学びを深め
る並行の「まなむら」の会も
開催しています。

いる子どもや保護者に寄り添っ
ていきたいと思っています」と柳原さん
は前を引かれます。
子どもたちが自由にのびのびと
した時間を過ごせる「わっか」。
活動を開始してまだ数年ですが、
ここからちまちまな取組みを
展開し、子どもの居場所づくりを
続けていきます。



※2018年の冬改装されたという古民家を改装した「子どもの居場所」の一角が写っています。



●子どもたちと一緒に食事をとる子ども食堂。子どもたちも笑顔が、まわりの大人も笑顔です。●地域の人が持つおもちゃが、子どもたちの遊びの楽しさを増しています。●地域の人が持つおもちゃが、子どもたちの遊びの楽しさを増しています。

自由な探求を尊重し
子どもの成長を促す

活動の中でもっと大切にして
いるのは、子どもたちの自由な探
求活動の尊重です。大人はど
もを促すあまり、「危ない」と
とまがけたり、自分より方を
教えしまつたりと、子どもの行
動を制限しがらみ。重要なのは、
子どもの試行錯誤を促し、必要
なものには手を貸すこと。「子
どもたちは、自分のできやうな
ことを探らして、自由な大切さ
を体験してもらいたい」と思っ
ています。と柳原さんは話します。
自由に遊べる場所は誰にでも
必要。大人は自分で経験を積
みませんが、子どもたちはそうも
いけません。今後は活動日を少し
づつ増やしていくと、木登り
なく、積極的につらい思いをして

みんながほっとできる場所 わっか
所在地 米原市米原561 問い合わせ 070-1803-1059
ウェブサイト <https://bookem-ano-baba.jp/mdb/>

活動日
わっか 土曜・日曜 (10時～18時) 毎月第1、3土曜 (10時～18時)
waccabi 土曜・日曜 (10時～18時) 毎月第1、3土曜 (10時～18時) 毎月第1、3土曜 (10時～18時) 毎月第1、3土曜 (10時～18時)

※月曜日の活動は、お天気の都合により、中止になる場合があります。

[活動報告⑫] 助成金実績

- 米原市地域創造支援事業
H27：200,000 円
H28：600,000 円
H29：750,000 円
H30：668,000 円（予定）
- 米原市お茶の間創造事業
H29：450,000 円
H30：80,000 円
- 米原市自然に親しむ遊び場事業
H28：100,000 円
H29：100,000 円
H30：100,000 円
- 中辻創智社 子ども食堂などに学習機能を付与するための助成事業
H30：50 万円
- 滋賀県社協 子ども未来基金
H27：199,900 円
H28：184,000 円
- 「遊べる・学べる淡海子ども食堂」モデル事業
H27：200,000 円
H28：100,000 円
H29：100,000 円

わっかの活動を支援してください

●正会員として支援 1口 1000円 (1口以上)

わっかのメンバーになっていただき、継続して活動を支えてくれる方。1年に1回の総会の場や普段も活動についてご意見いただくことも可能です。資金だけでなく活動にも関わられる方はこちらで、ご支援ください。

●賛助会員として支援 1口 2000円 (1口以上)

わっかを継続して活動を支えてくれる方で活動に参加することは難しい方、こちらでご支援ください。

●会員としてでなく 何円でも

お好きなタイミングで金額もご自由にご支援いただけます。

寄付の方法

●滋賀銀行から

【店番】 423 【預金項目】 普通預金 【口座番号】 030723 【名義】 トクヒ) ワツカ

●手渡しで

活動の際にお渡しいただいても構いません。また、わっかの連絡先などにご連絡いただきましたら、スタッフが参ります。

●Amazonから

Amazonの欲しいものリスト <http://amzn.asia/96Ujg5c>



NPO 法人 わっか

住所：〒521-0012 滋賀県米原市米原 561

電話：070-1803-1059

メール：wacca235@gmail.com

WEB：http://bouken-asobiba.jimdo.com/

Facebook ページ：https://www.facebook.com/wakkamaibara/